

図書館へ行こう！

だから、本を読むんだ！

日向学院図書館だより 第15号 平成28年11月30日発行

＜図書館利用の三原則＞

- ・制服で入館すること。体操服などでは入館しない。
- ・静かに読書・学習をし、他人に迷惑をかけないこと。
- ・図書の返却期限はかならず守ること。

図書館に飲食物を持ち込むことはできません。ペットボトルや水筒などを持っている場合は、カバンの中に入れてから入館し、閲覧室内では飲まないようにしましょう



「成功」の
原点は読書
だった。

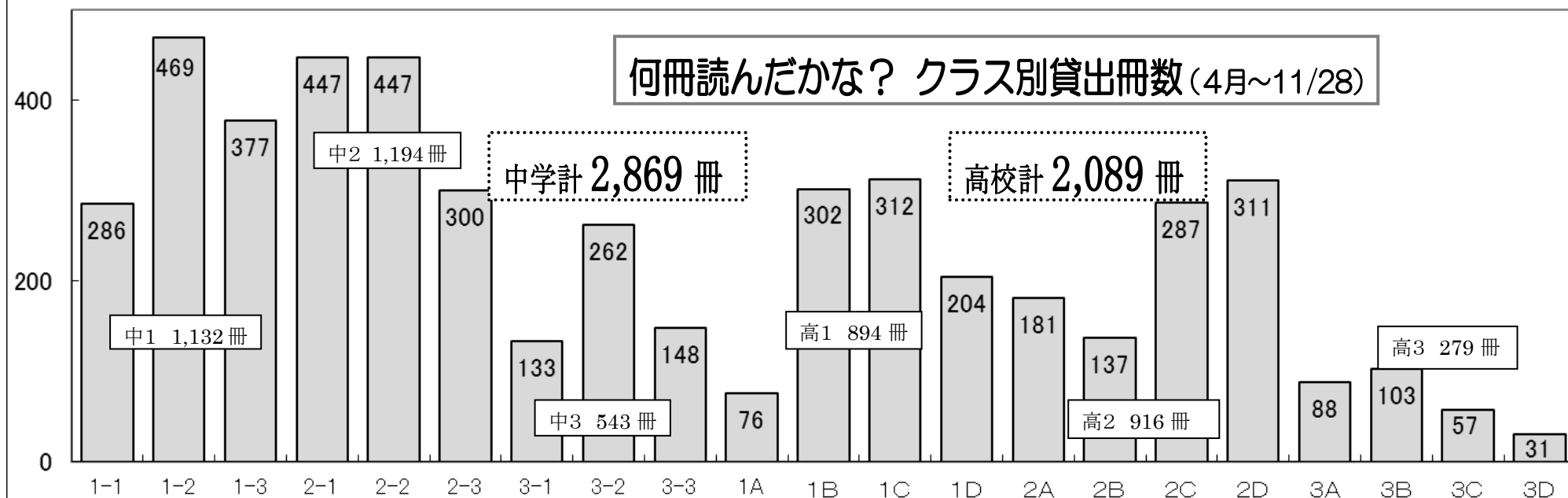
12月の図書館利用日（表中の■は、休館日です↓）

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16 特別 貸出開始	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

利用時間 10:00～18:15

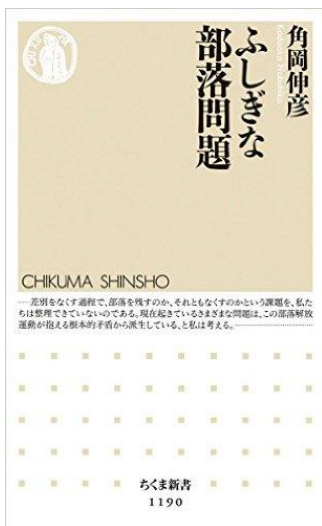
読書の秋、皆さんはどんな本を読みましたか？ 読書の季節は年中無休です。この冬、手に取る1冊が、皆さんにとって良い出会いとなりますように。

何冊読んだかな？ クラス別貸出冊数（4月～11/28）



*****先生方おすすめの1冊*****

社会科 山崎 隆先生のおすすめ 角岡伸彦著『ふしぎな部落問題』



「部落差別」を知っていますか？

江戸時代、「武士」たちは「農・工・商」を支配しやすくするために、それらの下に「かわた（長吏）」・「非人」という身分を作りました。そして、この身分が出来たときに、偶然、この身分に組み込まれる仕事や環境にあった人々をその身分に当て込んで、しかも、わざと人の住みづらいような場所に住まわせ、わざと粗末な格好をさせて「農・工・商」の人々に見下させ、彼らの不満のはけ口として利用しました。そしてその政策は見事に的中して、江戸幕府は二百数十年にわたって安泰だったりします。

しかしその間、「かわた」「非人」の人々はさげすまれ続けます。そのさげすみは江戸時代が終わっても続き、彼らの子孫がいまだに差別されている、と言う社会問題が「部落差別」です。

ここでの「部落」とは、「かわた」や「非人」が集め住まわされていた地域を言います。「今そこに生活している人たちは、それらの身分だった人たちの子孫だ」と言うことで差別を受け続けている、と言うのです。

当然、このようなことが許されるはずはありません。昔からそれをなくすための取組はなされてきました。中学の教科書にも登場する“1922 年設立の全国水平社”は有名です。戦後もその努力が続けられてきました。

さて私は、「現在ではこの問題はほとんど解決しただろう」と思っていました。ちょうどそのときに本屋で見つけたのがこの本です。何と、まだ終わっていないようです。その具体例や、問題解決のために取り組んでいる人たちのお話が書かれています。

弱い立場の者を見出して（作り出して）、それを^{さげす}蔑むことによって自ら安心を得ようとする。そんな醜さを人は持っているように思います。それを発端としての差別ゆえ、なかなか容易には消滅しなものであろう、と悲しくなりました。

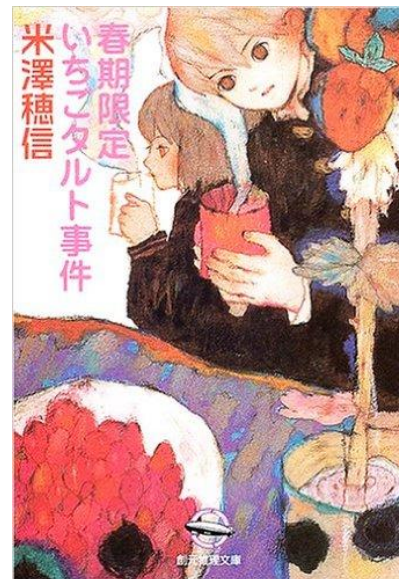
理科 井上誠一郎先生のおすすめ

米澤穂信著

『春季限定いちごタルト事件』

映画化もされた本格推理小説『インシテミル』の作者・米澤穂信さんが高校生を主人公に描くミステリの短編集です。

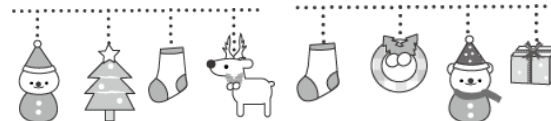
高校入学を機に目立つことをやめよう（＝小市民になろう）と心に決めた小嶋くん和小佐内さん。しかし2人の身のまわりには頻繁に謎がわき出て、解決せざるを得なくなってしまう。「目立ちたくない！」そのようなジレンマと謎解きが楽しめる手ご



ろな作品です。しかも短編集とはいえ、全体を通して大きな問題の解決につながっていく手法は見事。長編ミステリとしても楽しめます。

ちなみに、続編として『夏期限定トロピカルパフェ事件』と『秋期限定栗きんとん事件』も刊行されています。『冬期限定・・・』で完結するのでしょうか・・・？

【予告】
冬の特別貸出
のおしらせ



期 間 12/16(金)～12/27(水)
貸出上限冊数 一人10冊 まで
返却期限 2016年1月11日(水)厳守